

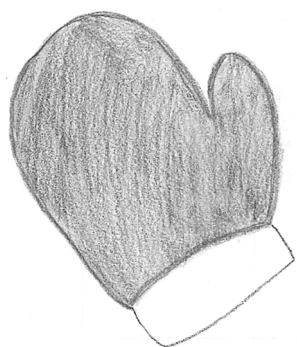
令和五年度

湖南省の小さな詩人たち

子どもたちが創った

詩・俳句・川柳・短歌

入賞作品集

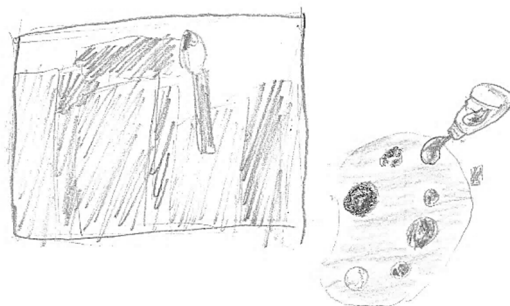


主催

湖南省教育委員会

協賛

水口ライオンズクラブ



もくじ

○ 詩部門

・ 小学校一年生～三年生の部	1
・ 小学校四年生～六年生の部	4
・ 中学生の部	7

○ 五七五部門

・ 小学校一年生～三年生の部	10
・ 小学校四年生～六年生の部	12
・ 中学生の部	14

【表紙絵】

石部小学校	五年	山本 <small>やまもと</small>	優紗 <small>ゆうさ</small>	詩「手びくろ」 「よろ
石部小学校	六年	山尾 <small>やまお</small>	美桜 <small>みお</small>	詩「色」 「よろ

【自由詩部門】

(野呂 昶 選)

【最優秀賞】 小学校一年生～三年生の部

ともだちいいな

石部南小学校 一年

高野

晴乃

ともだちがいると たのしいな
ともだちがいると うれしいな
だって だって
パワーをもらえるもん
ともだちは いつも いつも
そばにいる
ともだちみんなあつまれ
みんなたのしい
いいきもち
うれしい
うれしい
みんなやさしい
うれしいな

わくわく
わくわく
なにしよう
やっぱり
やっぱり
ともだち
さいこう
大すきともだち



【評】

ともだちがいることは、すてき
ですね。やさしいともだち、明
く元気なともだち、気持ちがあ
りあえるともだち、ともだちが
いることの喜びを、いきいきと
がいています。

【優秀賞】小学校一年生～三年生の部

えんぴつ

菩提寺北小学校 一年 細川ほそかわ 琥太郎こたろう

いつもぴんぴんでせんがまっすぐ
すうとおとがなっていて
みみできくときれいなおとだ
こころがおちつく
気もちいい
いつもおしごとたくさんしてて
かっこいいね
あしたもおしごとするのかな
まいにちまいにちがんばるね
おしごとたくさんありがとう

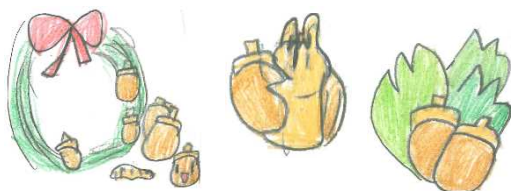


【優秀賞】小学校一年生～三年生の部

ドングリ

石部小学校 二年 丸橋まるはし 芽生めい

わたしはどんぐり
子どもころのふくはみどり
どんどんちやいろにかわってく
小さなぼうしをかぶってて
どんぐり虫とお友だち
リスさんはやく食べて、食べて
わたしはどんぐり
木からおちたら みんなで
おしゃべり
みんなにいっぱいひろってもらい
はやくリスにつけてほしいな
こまにしてぐるぐるまわして、まわして



【佳作】小学校一年生～三年生の部

空の色

岩根小学校 三年

岡村 おかむら

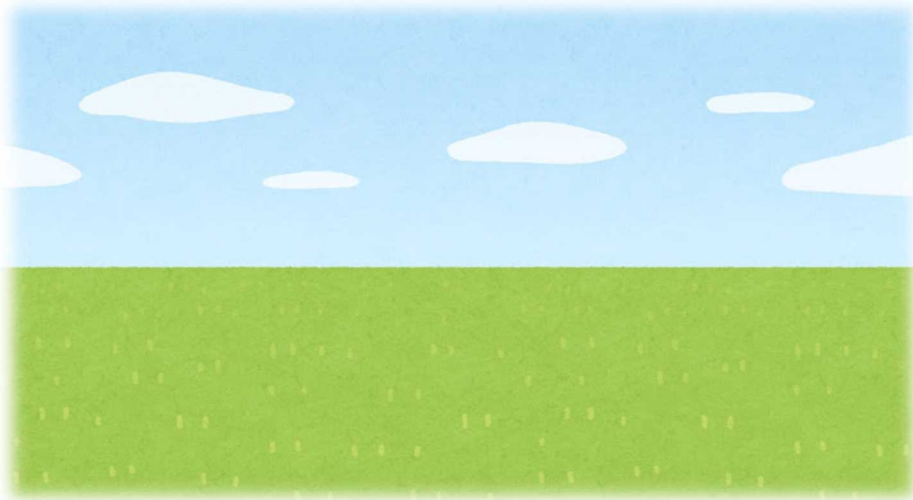
柚希 ゆずき

みず色 みず色
空の色

朝やお昼は
みず色だ
なんでだろう

あか あか あか
夕日がでてきて
まっかっか
なんでだろう

空の色はかわってく
空を見るのは
たのしいな



【自由詩部門】

(野呂 昶 選)

【最優秀賞】 小学校四年生～六年生の部

明日という未来

三雲東小学校 五年

栗元

和馬

明日になるということは
未来がくることだ
明日になるということは
年をとることだ
明日になるということは
今日とちがう自分になれること
明日になるということは
分からないことがまっている
楽しい事 悲しい事 色々あるけれど
やっぱり明日が来る
ないてもわらっても明日は来る
未来に向けて
「準備はいいかい」と太陽がといかける
「未来は、どうなっているのだろう」という質問に
ぼくは「分からない」と考える
きみは、どう思う



【評】

「明日になるということは／未来がくることだ」「明日になるということは／今日とちがう 自分になれること」このフレーズがとても詩としてすぐれています。明日には何が起るか、何ができるかは、だれにもわかりません。「明日には今日とちがう自分がある。新しい未知の自分がある」それもその通りです。一日一日を大切にすごすことによって、新しい自分がひらけてくる。自分の生活、生命を深く見つめたすぐれた作品です。

色とりどり

三雲東小学校 六年

安田 やすだ

愛杏 ちあ

世界にはいろいろな色がある

一人一人ちがう色

同じ色は一つもない

水色 赤色 黄色

藍色 茜色 向日葵色

似てるけど同じじゃない

合う合わないもある

似てる色も意外と合わなかったり

正反対の色が意外と合ったり

やっぱり世界は予想できない

世界はたくさんの色でできている

同じ色は一つもない

似ていてもなにかちがう

世界にたった一つだけの君の色



【優秀賞】小学校四年生～六年生の部

明日の心

三雲東小学校 六年

植田 うえだ

絢心 あやみ

ひとりヒトリ色がある
それは決して1つじゃない
ひとりヒトリ心がある
それはぜったい美しい
ひとりヒトリ命がある
それはかならず生きている



心はきつと1つじゃない
1人1人の心がつながるつながるつながるつながる
そしたらきつと見えてくる
自分1人じゃないことが
それが明日につながって
明日も心は幸せだろう

【佳作】小学校四年生～六年生の部

色

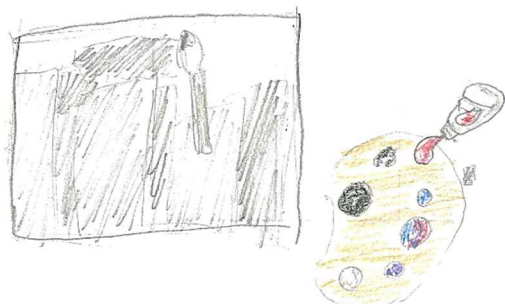
石部小学校 六年

山尾 やまお

美桜 みお

今日をそめる絵の具が
今日を青くそめた
かと思えば
だんだんあかくそめていく
やがて暗く深くなり
あちこちに光がともる

今日をそめる絵の具が
今日を灰にそめた
街は明かりが目立ち
人々はかさをさした
明日は何色にそまるのか
まだ誰も知らない



【自由詩部門】

(野呂のろ 昶さかん 選)

【最優秀賞】中学校の部

私の本

石部中学校 三年

江南えなみ

有琳ゆりん

私はたくさんのページをめくってきた

一枚めくれば、まぶしい木漏れ日
二枚めくれば、ミンミンゼミの声
三枚めくれば、森のやさしいにおい
四枚めくれば、さざ波の音色
五枚めくれば、友の笑う顔
六枚めくれば、季節はずれのタンポポ
七枚めくれば、黒猫の鳴き声
八枚めくれば、一面の田んぼ
九枚めくれば、つめたい夜風
十枚めくれば、あたたかい布団の中

しおりをはさみ

本を閉じる

今日を閉じる

あの日の記憶

あの日の思い出が

一ページとなる

私のすべてが

一ページとなる

明日を読むために

私はページをめくり続ける



【評】

本を読むことは、未知の世界に出会うことです。山や川や海や森や林、そこに住むさまざまな生き物のくらし、生命の躍動に合い新しい発見をする、その発見が新しい自分を創っていく、深い人生を見つめたい詩です。

海

石部中学校

三年

増田^{ますだ}

蒼空^{そら}

海は生命の源
すべての生命の母
いつも広い心でぼくらを見守ってくれている

海はすべての生き物の母
となりの子も

先生も
虫も

見た目はぜんぜん違うけれど
みーんな家族なんだよ

海を汚してはいけないのは
お母さんを傷つけてはいけないのと一緒だよ

「海の豊かさを守ろう」

守って伝えよう

生かしてくれていることへの感謝を

それがきくと最高の恩返しになるから

そのためにわたしたちができることは？

海は今日も変わらず

ぼくらをやさしく包みこんでくれている



当り前の人生

日枝中学校

一年

吉川 よしかわ

湊 みなと

「当り前」の会話

「当り前」の食事

「当り前」の学校

僕の人生は「当り前」ばかりでできている

このたくさんの「当り前」に

かくされた「幸せ」に

気づくのは

まだまだ先のことなのだ



時計の針

甲西中学校

一年

吉永 よしなが

葵 あおい

比例している 喜びと終わりは

喜びが大きくなるほど 終わりが近づく

一刻一刻 自分が思っているよりも

過ぎてゆく この時間

一瞬一瞬を閉じこめるように君を見つめる

喜び 楽しさ うれしさ

それにかくれる

さみしい。

それを心にしまつて

もっと奥深くにかくした。

また 君を見つめた。



【定型詩部門】

(平賀 胤壽 選)

【最優秀賞】小学校一年生～三年生の部

菩提寺北小学校

一年

山本 葵乃

ぶらんこを

大きくくぐりよ

空ゆれる



【優秀賞】小学校一年生～三年生の部

下田小学校

三年

坂本 美優

秋風が

ゆらりゆらりと

あそんでる



三雲小学校

二年

内林 美結

きゆうとうき

毎日音楽

おつかれさん



【評】

ぶらんこを大きく漕いだ時の爽快な気持ちは格別、同時に自分が大空へ飛ばされるような恐怖も一瞬味わいます。そのあたりの視覚や体感をコンパクトに表現できていますね。

【佳作】 小学校一年生～三年生の部

どんぐりは ぼうしをかぶった てれ屋さん

石部小学校

三年

竹村 たけむら
采音 ことね

木からポト まつぼっくりが なきだした

下田小学校

三年

山下 やました
凜人 りんと

スズムシが リンリンないて 音読中

三雲小学校

二年

中野 なかの
泉 いずみ

やさしくね みずをあげたよ 大こんに

石部小学校

一年

大尾 だいお
美心 みこ

きんぎょさん いっしょにあそぼう しゃべってる

菩提寺北小学校

二年

田中 たなか
勝己 かつき

あきになり なにをきるんだ はっぱさん

菩提寺小学校

二年

仁木 にき
琴音 ことね



【定型詩部門】

(平賀 胤壽 選)

【最優秀賞】小学校四年生く六年生の部

菩提寺小学校

六年

青木

斗吾

運動会 走りつづける ぼくの足



【優秀賞】小学校四年生く六年生の部

石部小学校

六年

奥嶋

奏陽

見上げれば

雲も同じく

衣替え



三雲東小学校

四年

鈴木

千聖

さつまいも

ぼくのあたまを

ひっぱって



【評】

随分と力の入った走りだったようです。走り
終えてからも、しばらく止まることできないほ
どに。そのような息遣いが伝わってきます。

【佳作】 小学校四年生～六年生の部

僕たちと ホタルで今を 光らせる

岩根小学校

六年

木田 きだ
絢斗 あやと

はばとびで 日本の国も とびこえる

石部南小学校

四年

南宮 なんぐう
日咲 ひなた

やきいもは あけると中が お月様

三雲東小学校

四年

森庵 もりな
紗彩 さや

くつ脱げた キミがいないと はしれない

水戸小学校

六年

川野 かわの
劉季 りゅうき

秋晴れに くもがながれる ヨーイドン

岩根小学校

六年

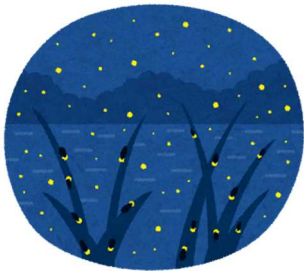
山口 やまぐち
乃愛 のあ

お祭りだ 色んな色が ちっていく

三雲小学校

四年

松島 まつしま
一心 いっしん



【定型詩部門】

(平賀 胤壽 選)

【最優秀賞】 中学校の部

日枝中学校

二年

黒川

穂花

入道雲 飛行機雲 雷雲

無限に続く 青い美術館



【優秀賞】 中学校の部

甲西中学校

一年

原岡

絃希

ぼくのこと

忘れちゃったの

ランドセル



石部中学校

二年

青木

孔汰

【評】

さまざまな雲のかたちは変幻自由。季節や気候によつて、空はカンバスのように雲の形を変えます。そこを澄んだ目で「青い美術館」とした表現に拍手。

汗握る 先輩去った 初試合

ドキドキ始まる 第一セット



【佳作】中学校の部

今もなお 夕焼けに残る 友の声

甲西北中学校

三年

高畑 たかはた

七太 ななお

ぶるぶると 抱きしめたくなる 寒すずめ

石部中学校

三年

深田 ふかだ

頼 らい

するすると 風がもみじの すべり台

甲西北中学校

一年

今城 いましろ

梨月 りつき

昔より 小さく感じる 向日葵や

甲西北中学校

三年

迫田 さこだ

琉菜 るな

ぶらんこや 空へ飛べると あの頃は

石部中学校

三年

山本 やまもと

陽明 はるあき



湖南市の小さな詩人たち 令和五年度 入賞作品集

子どもたちが創った詩・俳句・川柳・短歌

発行日 令和六年一月二十二日
編集発行 湖南市教育委員会